

第2章 史跡大友氏遺跡の立地・環境

1. 歴史的環境

(1) 大分市中心部の歴史的変遷と豊後府内

大分市は、奈良時代に豊後国の国府がおかれて以来、大分県の政治・経済・文化の中心であり、歴史・文化の資源にめぐまれている。そして、これら豊富な資源が、現代のまちの中に重なり合い遺されていることは、本市の歴史的な特色を示している。中でも、大友氏に関連する中世の遺跡は、現在の中心市街地の一画に良好に保存されており、歴史を活かしたまちづくりを進める上で重要な資産といえる。

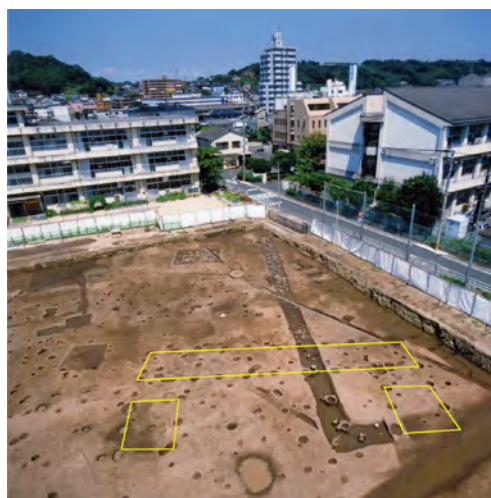
①大分市中心部の変遷

大分川の河口に近い左岸地域では、古くは縄文時代後期や弥生時代の遺跡が多く確認されているが、古墳時代後期から7世紀になると、上野台地の周辺には重要な遺跡が集中してみられるようになる。

上野台地の南方に位置する永興地区付近では、古墳時代の後半から7世紀にかけて巨石を用いた横穴式石室墳が、市内で唯一まとまって形成されている。そのひとつである弘法穴古墳は、当地を治めた大分国造に関わる古墳の可能性が高い。古国府遺跡群の西部では、近年の発掘調査により7世紀を中心とした地方官衙に関係する大型建物跡が確認されている。このように石室墳と官衙的な遺跡が集中する地域は市内の他にはみられず、当地が7世紀代における政治の中心地であったといえる。

続く8世紀になると、古代の国府推定地とされる上野台地の東端部に位置する上野遺跡群では、国府に付随した曹司とされる竜王畑遺跡や、基壇と礎石を有した古代寺院の跡である上野廃寺が建立されている。また台地の東斜面には平安時代末期に元町石仏が造営されるなど、上野台地の東端部は古代における豊後国の中心地であった。

中世になると、大分川左岸の沖積地上には、豊後国守護大友氏により14世紀初頭に万寿寺が創建され、さらに14世紀後半頃、現在の顕



古国府遺跡群【飛鳥時代の中心】
7世紀前半の大型建物跡



元町石仏【古代の中心】

徳町に大友館が築造されたことで、これらを中心に「府内」と呼ばれる都市的な景観が形成されていく。16世紀になると「府内」はさらに発展して、現在の元町から長浜周辺にかけて広がり、政治・経済・文化・交易・宗教等に関わる諸機能を備えた、豊後国の中心都市として繁栄した。

江戸時代初期になると大分川の河口に府内城が築城され、17世紀初頭には中世府内町の諸寺院や町組を取り込みながら府内城と城下が完成する。豊後最大の商都として繁栄した現在の大分市中心部は、この近世城下町を踏襲したものである。

このように、大分市の中心地域は飛鳥時代から現代にかけて上野台地を起点として反時計回りに変遷するという史的な特色もっている。



大友氏遺跡【中世の中心】
(大友氏館跡庭園跡)



府内城【近世の中心】

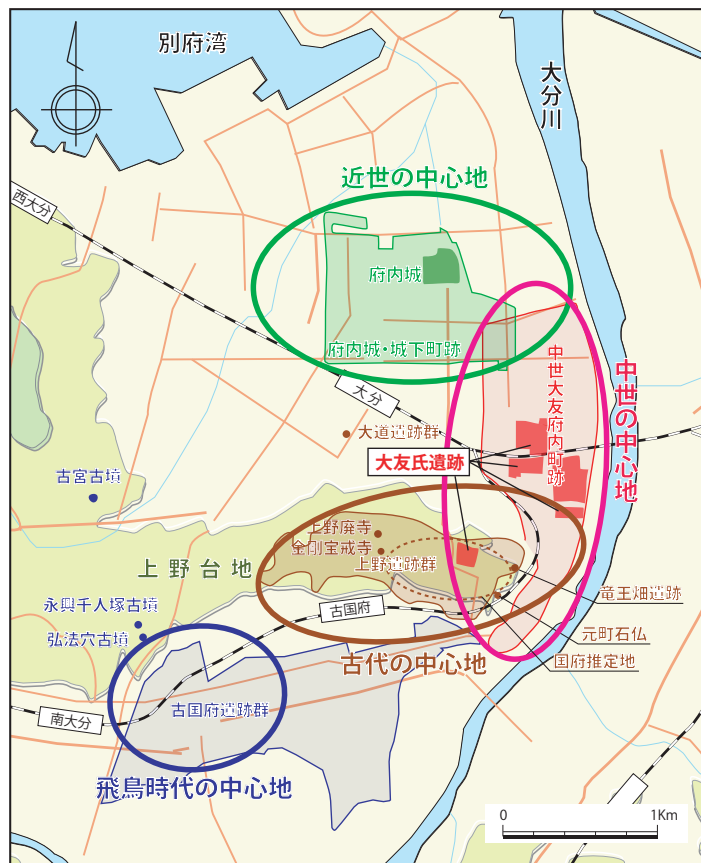


図 2-1 大分市中心部の遺跡の変遷

②中世府内の形成

大友氏館跡・唐人町跡・推定御蔵場跡・旧万寿寺地区などが立地する顕徳町から元町の様子を伝える古い記録として「宇佐神領大鏡」があり、11世紀の天喜元年(1053)、康平2年(1059)、承保4年(1077)の文書に「勝津留畠^{かちがつるぼたけ}」として登場する。このうち、天喜元年の文書によると勝津留畠の西の限りは「高国府^{たかごう}」とされ、現在の上野台地東端部と推定されている。また、同じ文書の中には「東限北廻り、二方市河」の記述もあり、11世紀中頃は太分川が市河と呼ばれていたこと、この段階ですでに太分川沿いで河原市が立っていたことが想定され、中世「府内」の初源的な姿と考えられている。

14世紀初頭の徳治元年(1306)には、勝津留畠を含む一帯において万寿寺が建立される。発掘調査で遺構が確認されるのはこの時期からである。その後、14世紀後半頃には大友館が形成され、つづく15世紀には大友館周辺の広い範囲で遺構の展開が確認されるようになり、さらに16世紀には図2-2にあるような町が拡大・形成された。

③豊後府内

戦国時代の府内は、遺構・遺物が質・量ともに最大化し、史実に示される南蛮貿易の推進により繁栄した府内の姿へと発展する。「府内古図」に描かれた豊後府内の中心は南北4本、東西5本の道路が整備され、南北2.1km、東西0.7kmの広がりがあったと考えられる。整然と区画された道路に沿って町屋が立ち並び、方二町の大友館内部には大規模庭園が造営されるなど、遺跡の面からも最盛期を迎えることがわかっている。この頃の府内の町の姿は、武家地と商家が混在する戦国時代の京都の町に似たものであったと考えられる。



中央の道路に面して町屋が建ち並ぶ「寺小路町」の調査状況全景写真
(中世大友府内町跡第97次調査)

豊後府内は、中国・朝鮮半島・東南アジア地域との貿易により繁栄した「国際貿易都市」、「戦国大名の館を中心に発展したまち」という二つの性格を併せ持った特性を有している。また、キリスト教宣教師の報告をはじめとする海外の文献史料が多く残る点も大きな特徴であり、東洋文化と西洋文化の出会いの場となり、いち早く南蛮文化が育まれた地であることを詳細に窺い知ることができる。

繁栄を誇った豊後府内は、天正14年(1586)の島津軍の豊後侵攻により灰燼に帰す。その後、町は部分的に復興するが、大友館は元の場所に再建されることはなかった。

江戸時代初期になると府内城および城下町が築城され、1602年頃に新城下町へ都市機能が移転したことで、豊後府内は終焉を迎えた。



「府内古図」は、江戸時代の府内藩主日根野吉明が、戦国時代の府内の町を偲んで、旧府内町を知る住民の情報を基に描かせた絵図といわれている。「大友館」や「萬壽寺(万寿寺)」等の施設が描かれ、道路上には「唐人町」などの町名と、町境を示す施設である木戸が確認できる。戦国時代の府内の町の様子を示す貴重な資料である。

図 2-2 府内古図 (部分) [個人蔵]

(2) 大友氏の概要

初代大友能直よしなおが鎌倉時代に豊後の支配者として任命されて以後、大友氏は約400年間に渡り豊後国を本拠とし、21代義鎮よししげ(宗麟)の頃には、豊後のほか、筑前・肥前など九州北半6カ国の支配権を手に入れ、戦国大名としての威容を示した。

①大友氏の豊後入国

大友氏の豊後入国については、初代能直、2代親秀ちかひでとも守護として入国した事実はなく、大友惣領家として最初に豊後に入国したのは3代頼泰よりやすである。頼泰は、仁治3年(1242)「新御成敗状」二十八箇条、寛元2年(1244)には「追加」十六箇条を制定し、豊後国統治の基本方針を定め、元寇の際は、鎮西奉行として豊後国の御家人を従え奮戦した。

②南北朝時代の太友氏

鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇の政権から足利尊氏が離反すると、天皇家は北朝(京都)と南朝(吉野)に分裂する。当時の大友惣領家6代貞宗は、惣領が庶氏さだむねに知行を分け与える分割相続の形態から嫡子単独相続の形態へと切り替えるが、これが南北朝対立と絡まり、大友氏一族内の対立を生み出す原因となった。大友惣領家は足利尊氏派(北朝方)の立場をとり、九州の北朝方の拠点となるが、8代氏時うじときの頃南朝軍に度々府内に攻め入れられ、第1回目の南朝軍侵入の際は、なすすべもなく降伏する。北朝方に復帰を果たした後は、再三にわたり南朝軍の侵入を招くものの、高崎城で攻防を繰り返し敗れることはなかった。9代氏継うじつぐは、大友家を存続させるため南朝方へ翻るが、10代親世ちかよは九州探題であった今川了俊いまがわりようしゆんへの協力を惜しまず、南朝勢一掃後、多くの恩賞を与えられたことから大友氏中興の祖といわれる。

しかし親世は、自分の家督を兄氏継ちかつぐの子親著に譲ったことにより、氏継系・親世系の交替相続制を生み出し、大友家内部の家督騒動の要因を招くことになる。

この家督騒動も、14代親隆ちかたかが自分の娘を13代親綱ちかつなの弟親繁ちかしげ(15代)の妻にするという条件で家督を譲り、その後は親繁の嫡子政親(16代)が惣領家を継ぎ、交替相続に終止符が打たれ、安定した権力基盤が形成されることになる。

③戦国時代の太友氏

戦国時代の始まりともいわれる応仁の乱の頃、大友親繁・政親父子は乱に深入りすることなく内政の充実に力を注いでいたが、17代義右よしすけは父政親と対立し、両者の死を招くという事件が起きた。この事態を收拾したのが政親の異母弟18代親治ちかはるである。以後、義長よしなが・義鑑よしあき・義鎮よしむねと安定した嫡子単独相続が行われる。19代義長は戦国大名が分国の直接的支配を強化するための基本である分国法を「条々」という形で定め、領国支配の確立へ向けて奔走し、戦国大名へと歩み出す。

20代義鑑から21代義鎮への移譲は、大友家最後の内紛「二階崩れの変」によって実現した。義鎮が家督をついだ翌天文20年(1551)7月、ポルトガル船が日出沖に来航し、翌8月には義鎮の招きにより、フランシスコ・ザビエルが周防山口から府内に入りキリスト教の布教を始める。義鎮は、父義鑑から継いだ豊後・肥後・

筑後のほか、豊前・筑前・肥前を領し、6カ国の大名として過去最大の版図を築く。その後、永禄5、6年（1562～63）頃剃髪して宗麟と号し、白杵丹生島城に移り、元亀元年～2年（1570～71）頃には家督を嫡子義統（22代）に譲った。

宗麟から義統の頃、豊後のキリスト教布教は次第に定着し、府内がイエズス会の日本における拠点となった。しかし、一方では、奈多大宮司家出身の田原親賢と宗麟夫人によるキリシタンの圧迫が行われるなど軋轢も生じた。

宗麟は、天正6年（1578）、受洗してドン・フランシスコと命名された。そして、島津氏に追われた伊東氏の本拠地の回復とキリスト教国家建設を目的に日向侵攻に踏み切るが、耳川の合戦にて大敗を喫する。続く、天正14年（1586）、九州制圧を目論む島津氏の豊後侵攻を許し、12月7日からの鶴賀城攻防、12日の戸次川の合戦で大友方は敗れ、義統は府内を脱出する。この危機は、豊臣秀吉の援軍で切り抜けるが、戦後、大友氏は豊後一国を安堵されたに過ぎなかった。宗麟は、秀吉からの日向一国を与える申し出を辞退し、直後の天正15年（1587）5月23日、隠棲していた津久見にて没してしまう。

文禄元年（1592）3月、吉（義）統は家督を長子の^{よしのり}義乗（23代）に譲り、6千名の士卒を率い、黒田長政の指揮のもと朝鮮へと出兵するが、文禄2年（1593）、小西行長の援軍要請に対応できなかったという理由で知行を没収され、能直以来続いた大友氏の豊後支配は終わった。

豊後から追放された吉統は、常陸国水戸に幽閉中の慶長4年（1599）、かつて大友館で執り行われた年中行事の内容を記載した史料「^{とうけねんちゅうさほうにっき}當家年中作法日記」を後代のために書き残した。

吉統は、慶長5年（1600）に起きた関ヶ原合戦では西軍について豊後に入り、大友家再興をかけ黒田孝高と戦うが、石垣原の合戦で敗北する。その後、大友氏は吉統の子である^{まさてる}正照の血統が、江戸幕府の儀式を司る高家として存続し、明治に至った。

表 2-1 大友氏・府内関連年表

	当主	大友氏・府内 関連事項	国内・国外の出来事
平安時代		11世紀半ば 「勝津留」の形成 1053〔天喜元〕 “高国府” “市河”の呼称 1059〔康平2〕 1077〔承保4〕 田中寺・市河の記載 1172〔承安2〕 このころ大友能直誕生。	1127年南宋成立 1156〔保元元〕 保元の乱 1159〔平治元〕 平治の乱 1167〔仁安2〕 平清盛 太政大臣となる。 1185〔文治元〕 平氏滅亡。
鎌倉時代	能直 (初代)	1196〔建久7〕 大友能直、豊前・豊後両国守護職兼、鎮西奉行に任ぜられる。	1192〔建久3〕 源頼朝征夷大將軍となる。 1195〔建久6〕 東大寺大仏殿再建される。
	親秀 (2代)	1219〔承久元〕 2代親秀、豊前・豊後国守護職及び鎮西奉行等諸職を継ぐ。 1221〔承久3〕 承久の乱が起こり、大友親秀、幕府軍に従い京都に攻め上る。 1223〔貞応2〕 能直、京都で卒し、嫡子親秀が継ぐ。	1221〔承久3〕 承久の乱 六波羅探題の設置
	頼泰 (3代)	1234〔文暦元〕 “府中”初見 1236〔嘉禎2〕 大友親秀、豊後国守護職・所領を嫡子頼泰に譲る。 1242〔仁治3〕 1.15「新御成敗状」 2.18 大友頼泰守護職に	1232〔貞永元〕 御成敗式目の制定
	親時 (4代)	1274〔文永11〕 蒙古襲来、大友頼泰、豊後国御家人を率い筑前博多で戦う。	1271年 モンゴル、国号を元とする。 1272〔文永9〕 蒙古襲来につき、九州の御家人下向、異国防御につく。
	貞親 (5代)	1285〔弘安8〕 大友頼泰、「豊後国田帳」を幕府に注進する。 1299〔正安元〕 鎮西引付衆がおかれ、大友貞親は三番となる。 1306〔徳治元〕 大友貞親、臨濟宗万寿寺を創建し、直翁智侃を招いて開山とする。	1274〔文永11〕 文永の役 1279年 元、中国統一 1281〔弘安4〕 弘安の役 1297〔永仁5〕 幕府、徳政令を発す。
	貞宗 (6代)	1333〔元弘3〕 大友貞宗、少弐・島津と共に九州探題北条英時を攻める。	1324〔正中元〕 正中の変 1331〔元弘元〕 元弘の変 1333〔元弘3〕 鎌倉幕府滅亡
室町時代 南北朝時代	氏泰 (7代)	6代貞宗、所領諸職(守護職附五職(在庁職?)並所領等)を7代氏泰に譲り、嫡子単独相続制に改める。 後醍醐天皇より博多息浜拝領。 1335〔建武2〕 大友氏泰代官、貞載、脇屋義助に従って足利尊氏討伐のため東下、伊豆砂の山で、尊氏に内応、朝廷軍敗れ京都に退く。	1334〔建武元〕 建武の新政
	氏時 (8代)	1336〔延元元〕 大友貞載、京都にて戦死。 豊後勢、尊氏に従って九州に下る。 1341〔暦応4〕 大友氏時が瑞光寺建立。 1344〔興国5〕 この頃、大友貞宗の子貞頼・氏宗は南朝方、氏泰・氏時は北朝方の両派に分かれるなど向背離合常無い状況にある。 1351〔正平6〕 大友氏時・田原直貞・竹田津詮之ら尊氏が南朝に下るに従い南朝に下る。 1352〔正平7〕 大友氏時ら豊後武士の多くは、尊氏が北朝に帰順するに従い北朝につく。 1355〔文和4〕 懐良親王・菊池氏豊後府内に入り、大友を下す。 “高国府”初見 1357〔延文2〕 大友氏時 高崎城を築き(伝承)これに拠る。 1359〔正平14〕 懐良親王、菊池氏を率い豊後に入る。 1361〔康安元〕 九州探題斯波氏経、大友氏時にむかえられ豊後府中に下り高崎城に入る。 1362〔正平17〕 菊池武光、豊後府中に侵入。 1363〔正平18〕 大友氏時、足利義詮より筑後国守護職に補任。	1336〔正慶3〕 南北朝の対立がはじまる。 1338〔暦応元〕 足利尊氏が征夷大將軍になる。 1342〔康永元〕 室町幕府が五山十刹を定める。 1348〔正平3〕 征西將軍懐良親王、薩摩国より肥後国菊池に入る。
	氏継 (9代)	1371〔建徳2〕 今川了俊の子義範、豊後国高崎城に入る。 1372〔文中1〕 菊池武光、豊後高崎城を攻撃。 この頃、大友氏継は南朝方となり、弟親世は北朝方となる。	1368年明建国 1370〔建徳元〕 今川了俊、九州探題となる。
	親世 (10代)	1379〔天授5〕 足利義満、大友親世に勲功の賞として肥前・筑前・肥後の地を宛がう。 1383〔弘和3〕 大友親世、国々散在の所領・所職を將軍義満に注進する。 義満、親世の本領・新恩地等を安堵する。 1387〔嘉慶元〕 大智寺、開祖独芳禪師により開かれる。	1391〔明德2〕 南朝滅亡 1392年 朝鮮建国 1392〔弘和9・明德3〕 南北朝合一なる。
		1394〔応永元〕 大友親世、豊後守護職を安堵される。	
		1398〔応永5〕 大友親世、大内義弘とともに菊池氏を八代に下し、その功により、のちに鎮西奉行となる。	1397〔応永4〕 將軍足利義満が金閣寺をつくる。 1399〔応永6〕 応永の乱 大内義弘、幕府に滅ぼされる。

・芥川龍男 1990「大友氏関連年表」『豊後大友一族』新人物往來社
・大分市史編纂委員会 1987「大分市の歴史年表」「大分市史」中巻 等より作成

	当主 年号は家督相続年 (一部推定含む)	大友氏・府内 関連事項	国内・国外の出来事
室町時代	1401年 親著 (11代)	1404 [応永 11] 大友親世「春日丸」就航。 1416 [応永 23] 大友親著、豊後国・筑後国の守護職に補任される。	1401 [応永 8] 日明貿易始まる。
	1423年 持直 (12代)	1418 [応永 25] 大友親世、府内の別荘にて死去。 1423 [応永 30] 大友親著、所領所職を大友持直に譲る。 1425 [応永 32] 大友親著の子孝親、大分郡三角島にて乱をおこす。 1429 [永享元] 朝鮮貿易始まる(7回)。	
	1431~32年 親綱 (13代)	1431 [永享 3] 大友持直、少弐満貞とともに大内盛見を筑前怡土郡に敗死させる。 1432 [永享 4] 大友氏と大内氏の戦い始まる。幕府、持直の守護職を没収。 豊後国守護職には大友親綱が任せられたといわれる。	
	1439年 親隆 (14代)	1439 [永享 11] この頃、大友親綱、家督を持直の弟親隆に譲る。	
	1444年 親繁 (15代)	1444 [文安元] 大友親繁、豊後国守護職補任。親繁、大内教弘と戦う。 1451 [宝徳 3] 第 11 次遣明船の 6 号船として大友船加わる。	1441 [嘉吉元] 嘉吉の乱。將軍足利義教が、赤松満祐に殺害される。
	1462年 政親 (16代)	1462 [寛正 3] 大友政親、將軍義尚より豊後国、筑後国の守護職を安堵される。 1465 [寛正 6] 大友親繁、筑後国守護職に補任される。	
	1484年 義右 (17代)	1469 [文明元] 大友親繁、細川勝元の東軍につき、大内政弘と戦う。 1476 [文明 8] 雪舟来豊 1484 [文明 16] 大友政親、家督を嫡子親盛(材親・義右)に譲る。 1494 [明応 3] 大友材親、將軍足利義材より偏諱「義」字を許され義右と改名。	1467 [応仁元] 応仁の乱始まる。 1471 [文明 3] 博多統治・大友殿東北 6000 余戸 少弐殿南西 4000 余戸 1477 [文明 9] 応仁の乱終わる。
	1496年 親治 (18代)	1496 [明応 5] 大友政親・義右父子、不和により義右殺害される。 政親の弟親治、跡を継ぎ、宗家を再興。	
	1501年 義長 (19代)	1501 [文亀元] 幕府、九州探題料地を大友親治に与え、大内義興の討伐を命じる。 幕府、親治の譲りにより豊後・豊前・筑後国守護職以下の所領を義親(義長)に安堵。	1501 [文亀元] 『海東諸国紀』成立。
	1515年 義鑑 (20代)	1515 [永正 12] 義長の「条々」制定。 1516 [永正 13] 朽網親満の反乱。 1518 [永正 15] 大友義長、死去。親安(義鑑)が跡を継ぐ。朽網親満の乱を収拾する。 1525 [大永 5] 大内義興・尼子経久の戦いに、大友義鑑は義興に援軍を送る。 1527 [大永 7] 海部郡佐伯惟治、菊池義武と通じ大友義鑑に背き、臼杵長景に攻め滅ぼされる。 1534 [天文 3] 大友義鑑、速見郡勢場ヶ原で大内義隆の軍と戦う。 1536~37 [天文 5-6] 頃 式三献の儀式が導入される。 1538 [天文 7] 大友義鑑、大内義隆と和す。 1545 [天文 12] このころ、初めてポルトガル人が府内を訪れる。 大友義鑑遣明船を派遣。	
1550年 義鎮 (21代) (宗麟)	1550 [天文 19] 二階崩の変が発生。義鑑卒し、義鎮、乱を平定し、跡を継ぐ。 1551 [天文 20] ポルトガル船(ドアルデ・ガマ船長)沖ノ浜に来航。 ザビエル府内訪問。(接見場所は 大友館か) 1552 [天文 21] カゴ神父沖ノ浜に来航。一万田鑑相らの反乱。 大友晴英、大内氏を継ぎ義長と改める。 1553 [天文 22] 府内教会建立 1554 [天文 23] 大友義鎮、肥後国守護職に補任。 1555 [弘治元] ルイス・アルメイダ、府内に育児院を建てる。 1556 [弘治 2] 小原鑑元の乱おこる。 義鎮、海部郡臼杵に丹生島城を築き、移る。 1555~56 [弘治元-2] 鄭舜功(『日本一鑑』著者 1560年代)来府。 1557 [弘治 3] 毛利元就、大内義長滅ぼす。 ルイス・アルメイダ、府内に病院を建てる。(義鎮、会堂を寄進) 1559 [永祿 2] 義鎮、將軍義輝より豊前・筑前・筑後国守護職に補任され、九州北部 6 カ国の守護を兼ねる。九州探題職と大内家家督を得る。 1560 [永祿 3] 義鎮、「左衛門督」に任じられる。 1561 [永祿 4] 義鎮、毛利方の門司城を攻め、大敗す。 1562 [永祿 5] 義鎮剃髮し、宗麟と称す。	1551 [天文 20] 大内義隆、陶晴賢に滅ぼされる。 織田信長家督を継ぐ。	
1570~71年 義統 (22代)	1570~71 [元亀元~元亀 2] 宗麟、家督を子義統に譲る。 1571 [元亀 2] 大友軍、赤間関にて毛利軍と戦う。 1578 [天正 6] 宗麟、日向国に出兵、土持親成を討つ。同年臼杵にて洗礼を受ける。 宗麟、日向国高城にて島津軍と戦い大敗(耳川の合戦)。 1580 [天正 8] ヴァリニャーノ豊後府内に到着。臼杵にて宗麟に謁す。 ヴァリニャーノ、臼杵にノヴィンヤド(修練院)を開所。 1581 [天正 9] 府内にコレジオ(学院)開校。 1582 [天正 10] 伊東マンショウら少年使節、長崎を出発。 1585 [天正 13] 豊臣秀吉、大友・島津両軍に停戦を命じる。 1586 [天正 14] 宗麟、秀吉に停戦命令を受け入れる旨伝えるため上坂する。 島津軍、日向国、肥後国方面から豊後国に攻め入る。 戸次川の合戦で、長宗我部信親戦死。島津軍府内に侵入、府内焼失。 1587 [天正 15] 秀吉の軍が九州に入り、島津軍退く。 秀吉、義統に豊後国を与える。宗麟には日向国を与えるが、宗麟辞退。その後宗麟、津久見にて卒す。 1588 [天正 16] 大友義統、秀吉より偏諱「吉」字を受けて吉統に改名。	1560 [永祿 3] 桶狭間の戦い 1567 [天文 20] 信長、美濃攻略。岐阜を本拠とする。 宗麟、信長に「赤壁廻函益」を贈る。 1568 [天文 21] 信長、足利義昭を奉じ、上洛。 義昭を 15 代将軍とする。 1571 [元亀 2] 毛利元就死去 1573 [天正元] 室町幕府、滅亡する。 1576 [天正 3] 信長、安土城を築造する。	
1593年 大友氏豊後除国	1592 [文禄元] 大友軍 6000、朝鮮半島へ。 1593 [文禄 2] 吉統、朝鮮の役による罪を問われ改易、豊後国は秀吉の蔵入地へ。 1594 [文禄 3] 早川長敏入府。上原館を修築して使用か。 1596 [慶長元] 豊後国に大地震あり、沖ノ浜が海中に没す。 1597 [慶長 2] 福原直高入府。 1600 [慶長 5] 関ヶ原の戦いおこる。 大友吉統は、西軍につき、石垣原にて黒田孝高と戦い大敗。 1599~1600 [慶長 4-5] 府内城・新城下町建設 1602~5 [慶長 7-9] 竹中重利により府内城完成。 町割を行い大友時代の「府内町」を移転。	1582 [天正 10] 信長、本能寺の変にて死去。 1585 [天正 13] 豊臣秀吉、関白となる。 1587 [天正 15] 伴天連追放令を出す。 1590 [天正 17] 秀吉、全国平定。 1592 [文禄 2] 文禄の役 1593 [文禄 3] 太閤検地 1597 [慶長 2] 慶長の役 1603 [慶長 8] 徳川家康、征夷大将軍になる。 1644 年明滅亡	
江戸時代	1650 [慶安 3] 頃 初瀬井路の開削。		

2. 自然的環境

(1) 地形・地質

①地形

大分市の東端は豊後水道を望む佐賀関半島・高島で、西は別府市・由布市に接しており、東西距離は約 42km の広がりをもつ。北は別府湾に面し、南は臼杵市・豊後大野市・竹田市と接しており、南北距離は約 20km である。豊後大野市との境界は、よろいがだけ 鎧ヶ岳（標高約 859 m）をはじめ、えぼしがだけ 烏帽子岳、くもがせだけ 雲ヶ背岳、ござがだけ 御座ヶ岳等といった標高 700～800 m の急峻な山が連なっている。東に進むにしたがって、比較的なだらかな山並みが続く。

大分市内には、大分川と大野川の 2 つの一級河川がある。大分川は、由布市狭間から横瀬、賀来、光吉を蛇行して東流し、古国府付近から北流して別府湾に注ぐ。大分川支流のひとつである七瀬川は、豊後大野市付近の源流から野津原を経て、光吉付近にて本川に合流する。大野川の源流は宮崎県・大分県の県境にある祖母山に発し、大分市域では北流し別府湾に至る。

高崎山から東に延びる上野台地、大野川と大分川に挟まれたつるさき 鶴崎台地、大野川右岸の丹生台地は標高 200 m 以下の丘陵地及び台地で、農地・里山から住宅地や工業地帯に変貌しつつある。下流域は大分川と大野川によって形成された大分平野が広がっている。

海岸部においては、北部沿岸海域は水深が深く、東部沿岸は豊予海峡に面したりリアス式海岸で、いずれも天然の良港となっている。

大友氏遺跡は、大分川左岸に形成された自然堤防上に立地し、現在の標高は約 4.0



図 2-3 大分市地勢図

～6.0 mを測る。この自然堤防を構成する堆積土層は、2.0～4.0 m程の厚さがあり、下位の砂層からは縄文時代後期～古墳時代前期の土器が、上位の層からは8世紀頃の遺物が出土していることから、縄文時代～古代にかけて形成されたと考えられる。

②地質

市域の表層地質の分布についてみると、佐賀関山地の変成岩類、大野山地の古生層、高崎山山地一帯の火山岩類に分けられ、これらの縁辺に第三紀層や洪積砂礫層、河川沿いの段丘堆積物や沖積層などが分布する構成となっている。

地層の古い順に、時代未詳の超塩基性岩、ジュラ紀の三波川変成岩類・朝地変成岩類（野津原古生層）、前期白亜紀の花崗岩類、後期白亜紀の大野川層群、新第三紀の大野火山岩類、新第三紀から第四紀にかけての碩南層群、第四紀の大分層群や火山岩類などがある。

なお、大分層群を被覆するように、また大野川・大分川・七瀬川流域に沿って阿蘇－3火砕流堆積物・阿蘇－4火砕流堆積物が広範囲に堆積している。

大友氏館跡にて検出された庭園に配された景石のうち、凝灰岩については、大分市永興付近で産出される上記の火砕流堆積物起源となる阿蘇熔結凝灰岩である。また、輝石安山岩については、大分川水系の由布市挾間町を流れる石城川で産出されたものと推測されている。

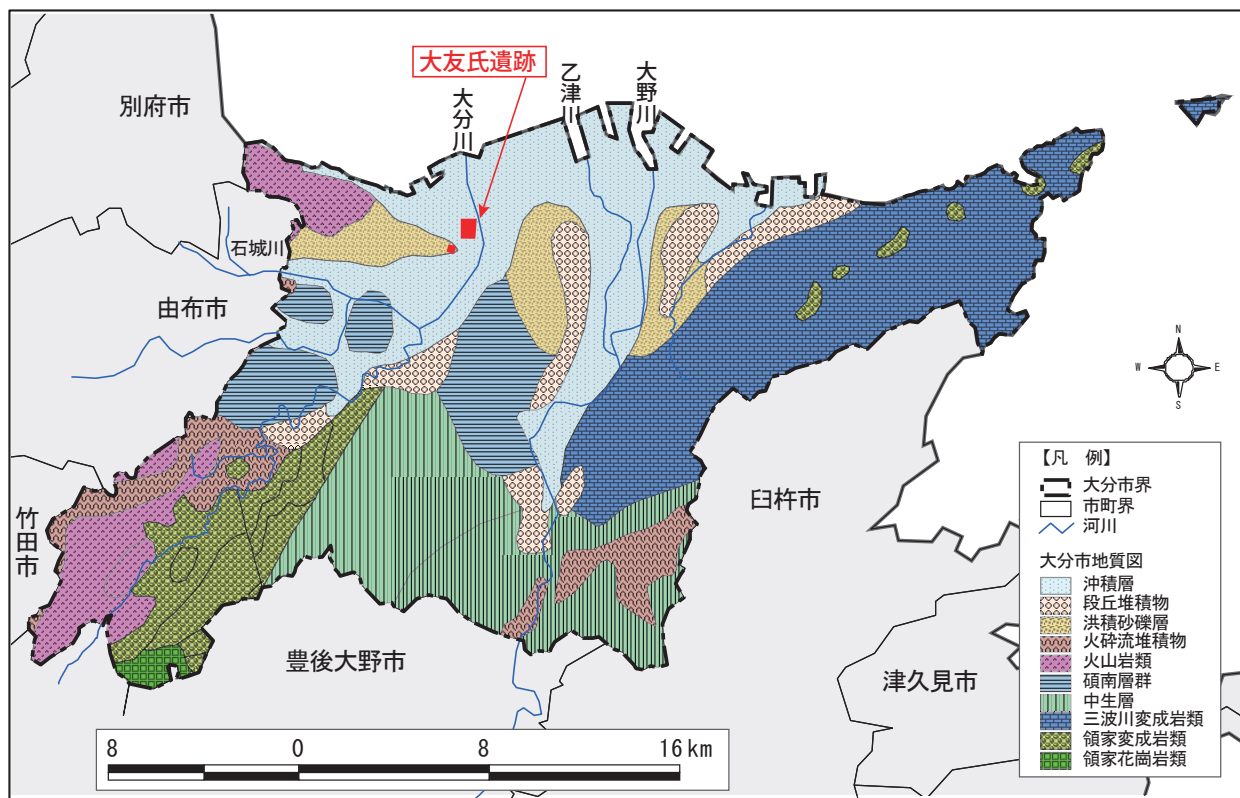


図 2-4 大分市地質図（出典『大分市地域防災計画』資料編 大分市地質図を一部改変）

(2) 植 生

大分市の植生は、南部の山地、丘陵地ではスギ・ヒノキ林、クヌギ・コナラ林などの植栽林が大半を占めている。柞原八幡宮、西寒多神社などでは、コジイやイチイガシが優占する社寺林がみられるほか、本宮山山頂にもアカガシ林が分布するなど比較的森林の状態が残されているところもある。

一方、市街地内の緑には、都市公園や河川、教育施設などの公共の緑地や社寺境内地などの民間の緑地がある。大友氏遺跡は、現状における植生はわずかであり、旧万寿寺地区の一部には畑が、推定御蔵場跡の一部には水田耕作が行われている。また、上原館跡については、館内部は宅地化されているが、北西部の張り出し部は現在山林となっており、クスノキ・カシ類の樹木が成長して密生している。

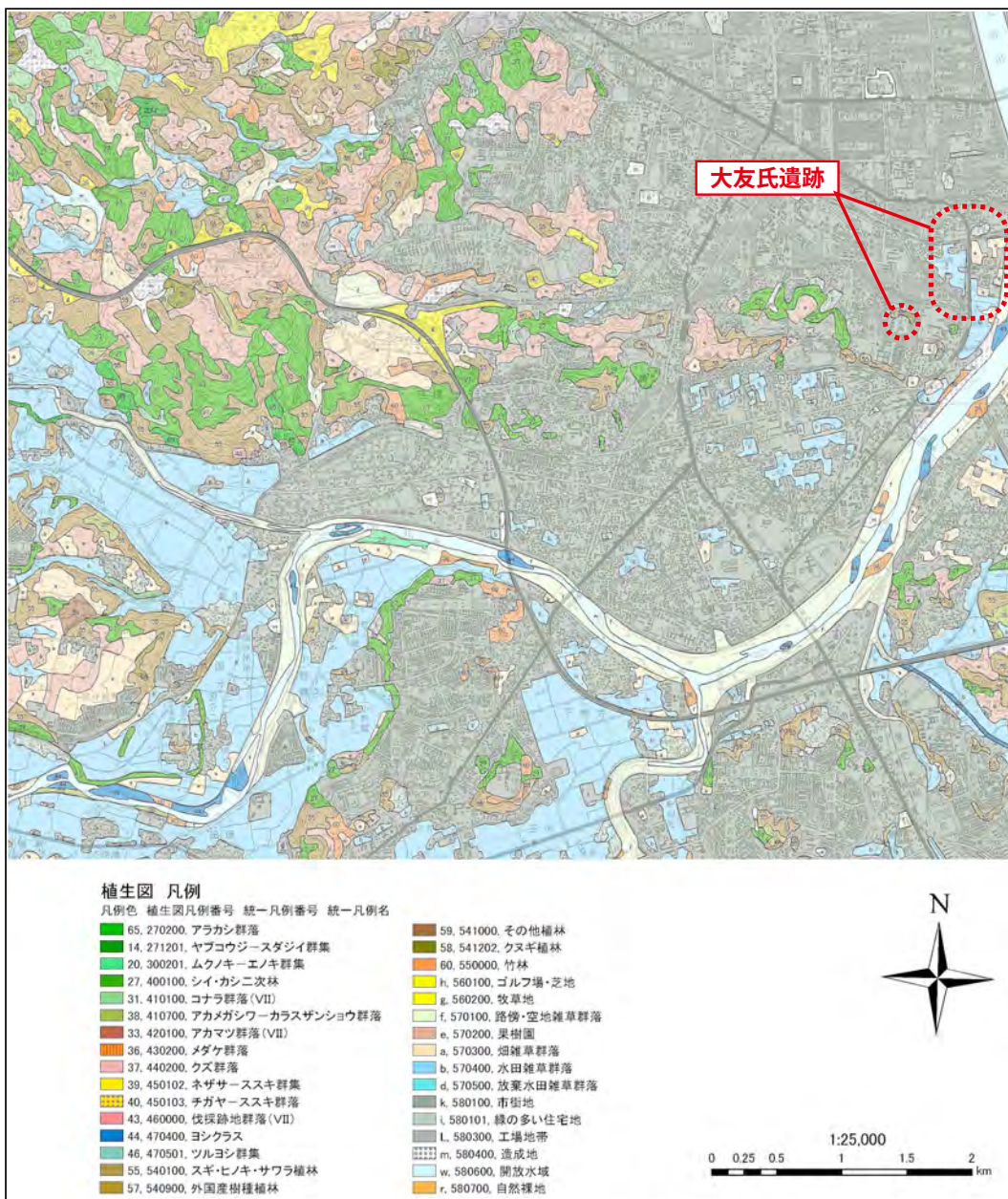


図 2-5 大分市植生図 (出典：第 6 回環境省自然環境保全基礎調査植生調査)

3. 社会的環境

(1) 交通

① 広域的な交通網

大分市は、東九州最大となる約48万人の人口を要する中核都市であり、同時に大分臨海工業地帯に代表される産業都市である。

日本の九州の東端、東九州軸の北部、瀬戸内海の西端に位置し、大分県の扇状領域の要として、南は臼杵市及び豊後大野市、西は別府市、由布市及び竹田市に接し、九州でも有数の広い市域を有している。

このため大分市は、陸・海の広域交通拠点となっており、九州・西日本各地から東九州への玄関としての役割を担っている。

陸路としては、大分自動車道や東九州自動車道が、鉄道では、大分駅を起点とするJR在来線（日豊本線・豊肥本線・久大本線）が整備され、宮崎、熊本、福岡へのルートを形成している。海路は、大分市から神戸・三崎（愛媛県）・大阪を発着するフェリーがあり、瀬戸内海を介した人・物の移動が活発に行われている。

なお、空路は国東市にある大分空港を利用して、東京（羽田・成田）、大阪（伊丹）、名古屋（中部国際）からの路線が就航しており、大分空港から市内まではバスで1時間ほどの距離となる。



図 2-6 大分市への交通網図

②大友氏遺跡周辺の交通網

J R大分駅から東に約 1.0km（直線距離）の地点に所在する大友氏館跡は、徒歩約 15分とアクセス性が極めて高い。駅から大友氏館跡までは、大分駅府内中央口（北口）→都市計画道路要町東西線→同県庁前古国府線→鉄道残存敷→大友氏館跡、もしくは大分駅上野の森口（南口）→市道要町 3号線等の JR線路沿いの道路→県庁前古国府線→鉄道残存敷→大友氏館跡のいずれかの経路がメインとなる。鉄道残存敷については、主に歩行者と自転車利用者による通路「線路敷ボードウォーク広場」として令和元年度に整備され、遺跡までの導入路としての活用が期待される。また、大分駅からは路線バスが利用できる。最寄の停留所は、大友氏館跡は「顕徳町」バス停、旧万寿寺地区は「東元町」バス停、上原館跡は「上野」バス停である。

大分市中心部へは、大分自動車道大分インターチェンジより庄の原佐野線を経由して車で約 10分以内の距離にあるが、平成 28年 4月の東九州自動車道全面開通により、県外からの車による大友氏遺跡への来訪が容易になっており、交通アクセスの観点から観光地としてのポテンシャルは高いと考えられる。課題となっていた駐車場の確保については、平成 30年度に大友氏館跡隣接地 2箇所に駐車場が整備され、利便性の改善が図られている。また J R九州と協議し、平成 30年度からは J R日豊本線高架下約 800㎡を駐車場として利用できるよう契約を締結した。



図 2-7 大友氏遺跡周辺の交通網図

(3) 法規制の設定状況

大友氏遺跡とその周辺の法規制の設定状況を整理する。

規制区域	担当課	概要
文化財保護法に基づく埋蔵文化財包蔵地 (図 2-9)	文化財課	工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地にある場合は、届出（文化財保護法 93 条）が必要である。 中世大友府内町跡は埋蔵文化財包蔵地であり、保護と開発事業との調和を図り、適正な発掘調査の実施と遺構・遺物の公開・活用に努めるものである。
都市計画法第 11 条に基づく都市施設「大友氏遺跡歴史公園」 (図 2-10)	都市計画課	平成 24 年 3 月時点で、17.5ha が都市公園として決定している。
都市計画法第 8 条に基づく地域地区 (図 2-10)	都市計画課	<p>●用途地域 大友氏遺跡歴史公園は、近隣商業地域、第 1 種住居地域、準工業地域に該当する。</p> <p>●防火地区・準防火地区 大友氏遺跡歴史公園には、準防火地区が含まれる。</p> <p>●特別用途地区 旧万寿寺地区は、大規模集客施設制限地区である。 ※大分都市計画区域内の準工業地域の全部を特別用途地区として指定し、「大規模集客施設制限地区」において、床面積の合計が一万平方メートルを超える集客施設の建築を制限。(大分市特別用途地区建築条例：平成 20 年 5 月 2 日施行)</p>
建築物における駐車施設の附置等に関する条例に基づく駐車場附置義務地域 (図 2-11)	都市計画課	駐車場の必要性が高い商業地等において、一定規模を超える建築物の新築、増築及び用途の変更を行う場合は、駐車施設を設置する。
自転車等の放置の防止等に関する条例に基づく駐輪場附置義務地域 (図 2-11)	都市交通対策課	商業地域及び近隣商業地域等の指定区域内において、規定する規模を超える建築物の新築、増築を行う場合は、自転車等駐輪場を設置する。
景観法（大分市景観計画）に基づく行為の制限	まちなみ企画課	市全域を景観計画区域に設定している。 ・市街化区域における行為の制限の例として、建築行為は高さ 20m 以上、又は延床面積 3,000 m ² 以上を届出の対象としている。
屋外広告物条例 (図 2-12)	まちなみ企画課	<p>●禁止地域 広告物を表示し、又は掲出物件を設置してはならない地域であり、文化財指定範囲、都市計画に定めた地域地区の一部、あるいは都市公園等を対象に設定されている。</p> <p>●許可地域 禁止地域以外は、第 1 種許可地域・第 2 種許可区域、特別規制地区（大分駅南地区）に区分される。</p> <p>●その他区域 鉄道高架沿線区域（高架上区域）</p>

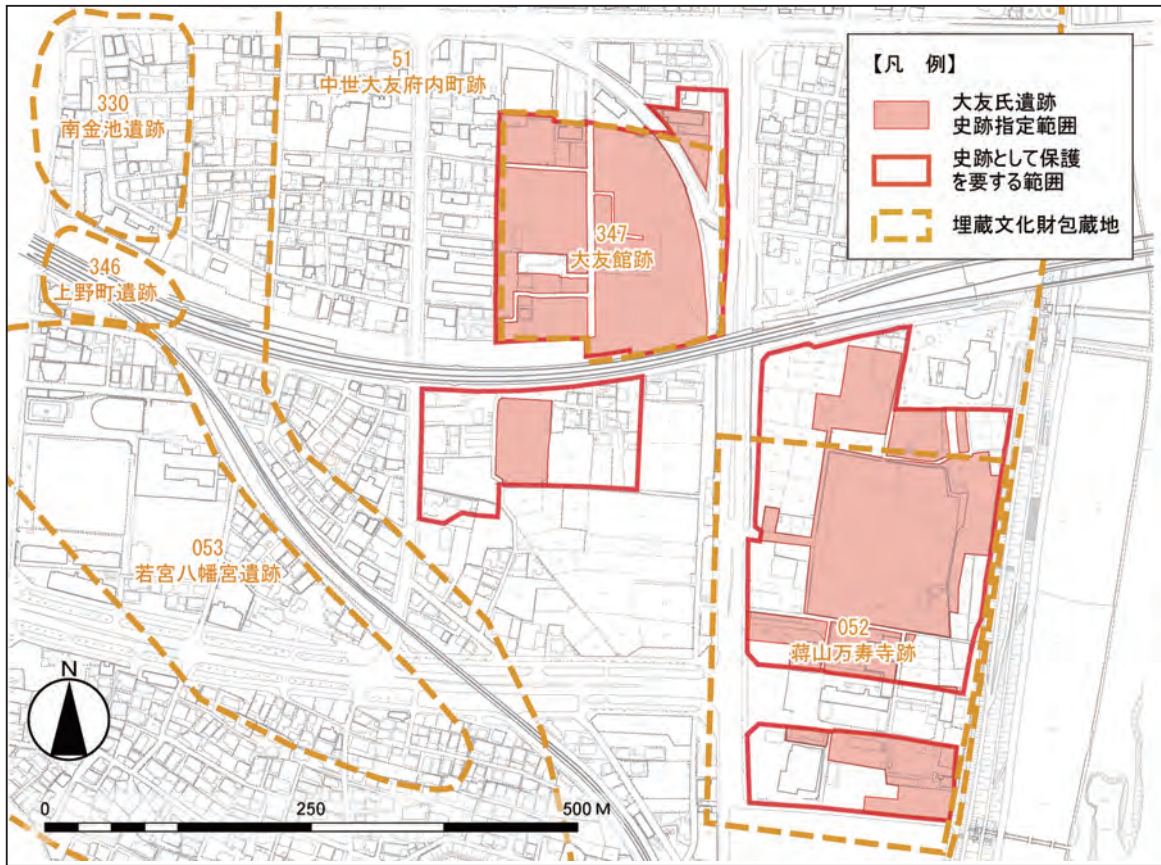


図 2-9 史跡・埋蔵文化財包蔵地等の設定状況

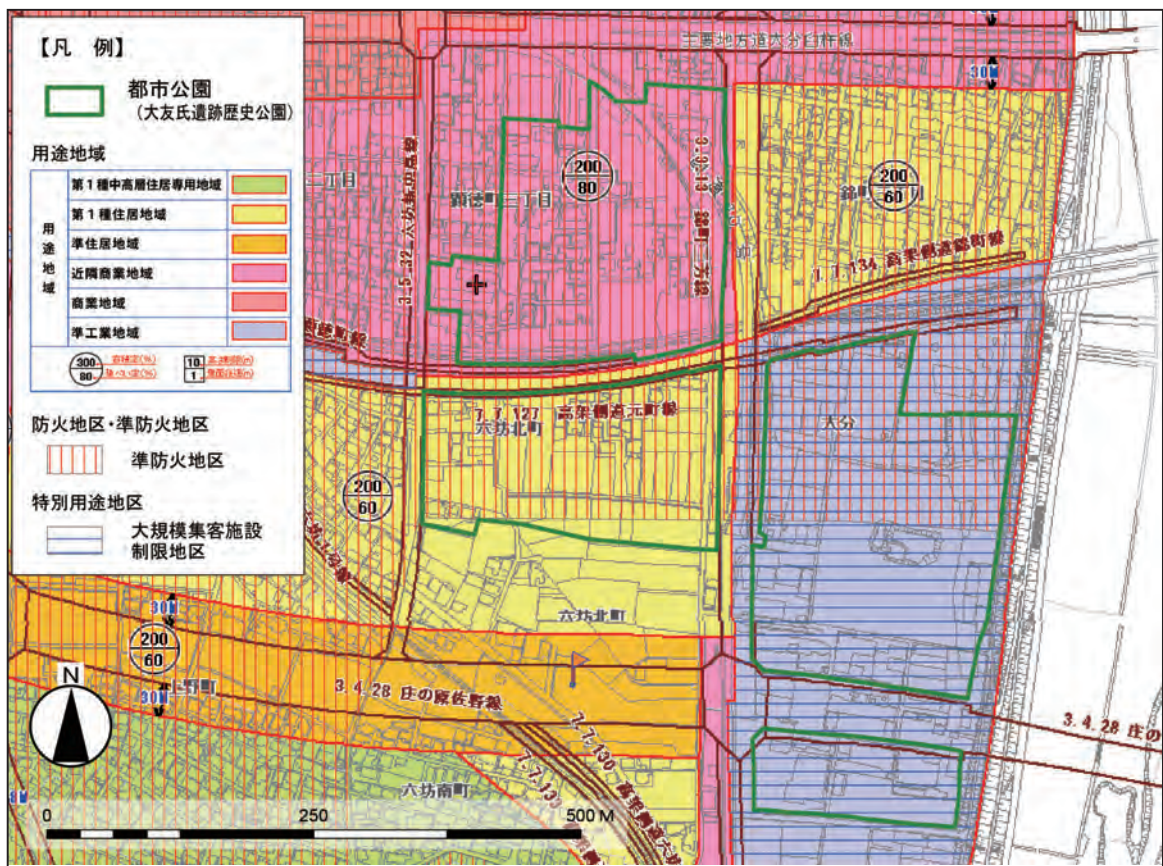


図 2-10 都市計画における地域地区（用途地域等）の設定状況

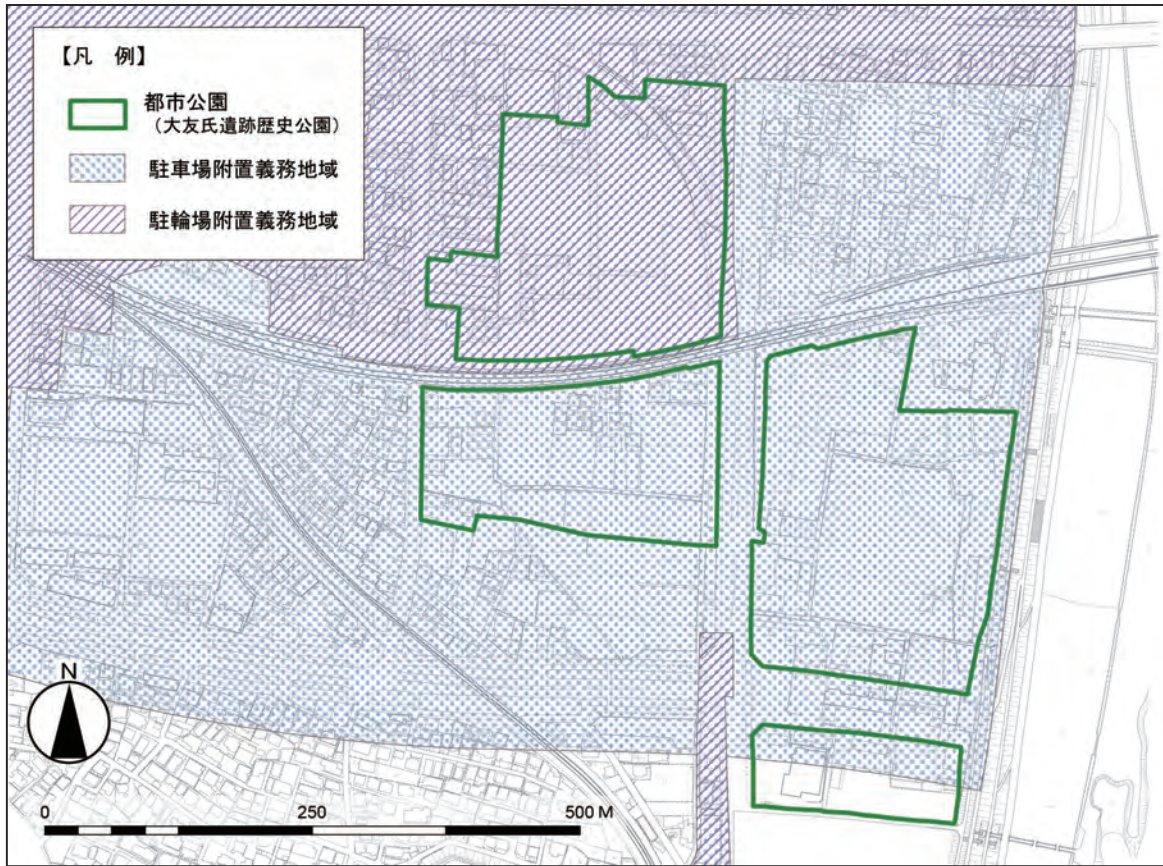


図 2-11 駐車場・駐輪場附置義務地域の設定状況

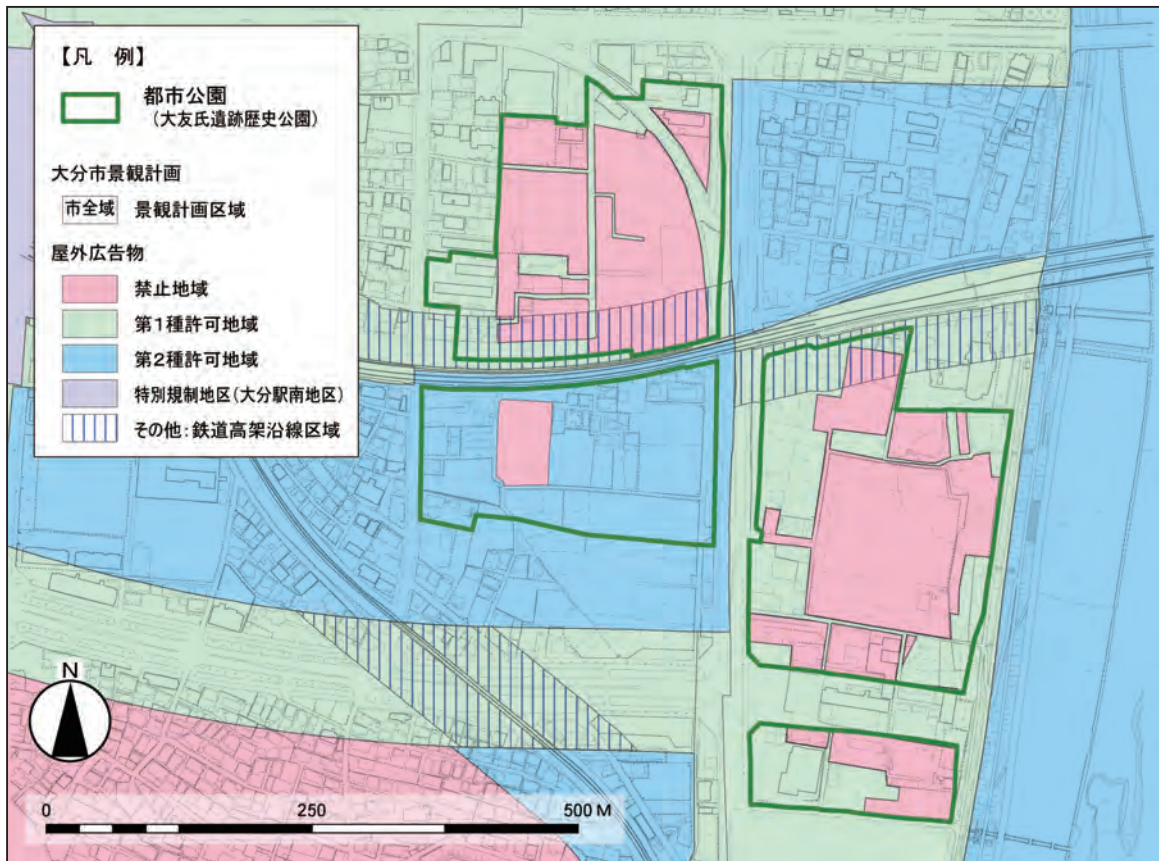


図 2-12 屋外広告物条例関連の地域・地区等設定状況

(4) 上位・関連計画における大友氏遺跡の保存活用（整備）の位置づけ

上位・関連計画	位置づけ	担当課
<p>◎大分市総合計画 おおいた創造ビジョン 2024 〔平成28年12月策定〕 目標年次：平成36年度</p>	<p>第2部 豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむまちづくり（教育・文化の振興） 第2章 個性豊かな文化・芸術の創造と発信 【基本方針】 優れた文化・芸術に触れる機会の拡大や本市独自の文化・芸術の情報発信、市民の主体的・創造的な活動の場の創出、文化財の保存・活用・継承に努め、文化・芸術を生かしたまちづくりを進めます。</p> <hr/> <p>⇒「教育・文化の振興」において、文化財の保存活用に関する基本方針や取り組みを示している。このほか、「魅力ある観光の振興」、「計画的な市街地の形成」においても、地域の歴史文化を活かす方向性を示している。</p>	<p>企画課</p>
<p>◎大分市教育大綱 〔平成28年2月策定〕</p>	<p>基本方針のひとつとして“個性豊かな文化・芸術の創造と発信”を定めており、これに付随する目標として“文化・芸術を生かしたまちづくり”を掲げ、“大友氏遺跡や府内城址などの歴史的文化遺産を生かしたまちづくりや大分市美術館と県立美術館との連携等によるアートを生かしたまちづくりを進め、本市の魅力をPRします。”としている。</p>	<p>教育委員会</p>
<p>◎大分市教育ビジョン 2017 〔平成29年3月策定〕 目標年次：平成36年度</p>	<p>○文化財の保護・保存・活用 ・大友氏遺跡の大友氏館跡庭園域・中心建物域・唐人町跡を中心に調査を進め、遺跡の適切な保護と管理に努める。 ・大友氏遺跡に関する情報をホームページやSNS等を通じて幅広い層に発信する。 ・市街地にある大友氏遺跡を歴史公園として整備し、大友館の庭園等を復元することで、市民が郷土の歴史・文化について学び、交流する場を提供する。</p> <p>○郷土の歴史学習の充実 ・子どもたちに大友氏をはじめとする大分の歴史を学んでもらい、郷土への愛着と誇りをもってもらうために、歴史検定を実施する。</p> <hr/> <p>⇒大友氏遺跡の整備・活用の具体的な取組が記載されており、多様な方向性が明確に位置づけられている。また、大友氏を活かした子どもを対象とした歴史学習を充実させる方針が示されている。</p>	<p>教育委員会</p>


上位・関連計画	位置づけ	担当課
<p>◎大分市都市計画マスタープラン 〔平成23年3月策定〕 〔平成28年7月一部改訂〕 目標年次：平成42年度</p>	<p>○都市環境・景観形成の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史と文化を活かした個性ある空間づくり：府内城址や大友氏遺跡などの史跡や歴史的資源の適切な保存、管理に努めるとともに、それらの活用を図る。 ・大分市のシンボルとなる景観づくり：大友氏遺跡などの「大分市のシンボル」となるべき景観については、重点的に保全・形成を図る。 <p>○中心市街地のまちづくり方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元町周辺地区では、大友氏遺跡を活用し、地域再生につながる歴史文化観光施設の整備を図る。 ・旧万寿寺跡では、市民や観光客が歴史や文化に身近にふれあえる交流空間の整備を推進する。 <hr/> <p>⇒都市のアイデンティティの形成、歴史文化観光拠点の形成として、大友氏遺跡の保存・整備・活用を位置付けている。</p>	<p>都市計画課</p>
<p>◎地域まちづくりビジョン 〔平成30年7月策定〕</p>	<p>○大分中央地域</p> <p>大分中央地区のまちづくりビジョンでは3つの提言のうち2つに大友氏遺跡と関連する内容が含まれている。</p> <p>提言1「地域全体の回遊性の向上」では、①回遊性の向上のためのルート整備として、大分城址公園・大友氏遺跡を結ぶ周遊観光ルートや大分駅と大友氏遺跡との回廊となる鉄道残存敷の活用、大分の歴史に触れる散策ルートとしての遊歩道や自転車道整備などの事業が提案された。②拠点となる施設の整備としては、大友氏遺跡歴史公園の整備・活用が含まれ、来街者だけでなく地域住民も歴史が学べる施設として整備・活用することが提案されている。</p> <p>③回遊ルートの活用としては、歴史・史跡を生かした観光の促進として、地域内にある古代・中世・近世各時代の歴史・文化の存在を活かし、観光ルートとして紹介・多言語での情報発信を行うことや、歴史・史跡を生かした観光ツアーの推進が提案された。</p> <p>提言2「コミュニティの深化」では、①多世代交流に向けた取組の一環として史跡サポーターの育成が掲げられ、古墳や大友氏遺跡など豊富な史跡を活かし、子どもに歴史を教え、子どもが案内できるような環境をつくる取組が提案されている。</p>	<p>企画課</p>

上位・関連計画	位置づけ	担当課
<p>◎大分市歴史的風致維持向上計画 〔令和元年6月認定〕</p>	<p>史跡大友氏遺跡が所在する地域は、大分市において維持及び向上すべき歴史的風致の1つである「新旧府内の祭礼にみる歴史的風致」として重点区域に設定されており、その中で大友氏遺跡が歴史的風致の構成要素となっている。</p> <p>本計画では、歴史的風致の維持及び向上に資する事業が計画されており、このうち、大友氏遺跡に関わる事業としては、「大友氏遺跡歴史公園整備事業」をはじめ9事業が予定されている。</p>	<p>都市計画課</p>
<p>◎大分市景観計画 〔平成18年9月策定〕 〔平成21年4月改正〕 〔平成22年10月改正〕</p>	<p>○景観形成の方針</p> <p>・市のシンボルとなる景観づくり：歴史的な遺構や史跡と周辺の街並み、固有の地勢から形成される景観など、本市の顔となるべき景観について重点的な保全・形成に取り組みます。特に、都心部における公共施設整備や大規模開発においては、積極的な緑化を誘導し、都心部に不足する緑量の確保を図ります。</p> <hr/> <p>⇒市のシンボルとなりうる地域として、また都心部における緑地として、重点的な景観形成が求められている。</p>	<p>まちなみ企画課</p>
<p>◎大分市緑の基本計画 〔平成12年5月策定〕 〔平成21年6月改正〕 〔平成31年3月改訂〕</p>	<p>○大分駅を中心とする中心市街地を緑化重点地区に定めており、その中で大友氏館跡歴史公園周辺を「緑の拠点」と位置づけている。</p> <p>・大分駅東側では大友氏遺跡歴史公園の整備が進んでおり、大友氏館跡・旧万寿寺跡の整備とともに、歴史資源と一体になった緑豊かな環境を創造する。</p> <p>・新たな公園として大友氏館跡歴史公園の整備を推進する。</p> <p>○大分地区の緑の配置方針：大友氏館跡・旧万寿寺地区等を含む大友氏遺跡歴史公園を歴史・文化・自然を活かした市民の活動拠点として位置づけ、併せて歴史的環境や景観等に配慮し大分川河川敷の整備を図る。</p> <hr/> <p>⇒新たな「緑の拠点」を形成する歴史公園として、先導的な整備が求められている。</p>	<p>公園緑地課</p>

上位・関連計画	位置づけ	担当課
<p>◎大分市観光戦略プラン 〔平成29年3月策定〕 目標年次：平成33年度</p>	<p>○地域資源を活用した観光振興の推進[歴史を活かす] 整備の進む国指定史跡「大友氏遺跡」を核とし、大友氏400年の遺跡の観光資源化を図るとともに、キリシタン・南蛮文化や北部九州一帯に残る大友家臣団が拠点とした山城、鶴崎踊や津久見扇子踊りなど宗麟公ゆかりの歴史・文化をテーマとした広域観光のプロモーションに取り組みます。</p> <p>⇒大友氏遺跡などの歴史遺産を観光資源として磨き上げるとともに、歴史を活かした観光振興の方針が示されている。</p>	観光課
<p>◎大分市生涯学習推進計画 〔平成29年3月策定〕 目標年次：平成36年度</p>	<p>・第三次計画は、「大分市教育ビジョン」の分野別計画として位置付けられた。</p> <p>・第4章「施策の展開」第1節「生涯学習の振興」に含まれる「地域子ども教育の充実」、「成人教育推進」のために「子どもの体験活動」・「地区公民館等、社会教育施設の教室・講座」、「市民のニーズにそった学習活動の展開」として実施する事業として「大友氏遺跡体験学習館事業」が位置付けられている。</p>	教育委員会
<p>◎史跡大友氏遺跡保存管理計画 〔平成25年策定〕</p>	<p>遺跡の特性である「大友氏400年の拠点」、「中世を代表する守護館の典型」、「地方最大級の禅宗寺院跡」、「南蛮文化発祥都市の地」、「国際貿易都市遺跡」、「機能分化した城館」を将来にわたって守り伝えることを基本的な考え方として定めた保存管理計画であり、これからの史跡管理の指針とする。</p> <p>○基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・史跡の追加指定と、史跡の本質的価値を構成する諸要素の確実な保存 ・学術調査を計画的に実施し、破損や修理を有する場合は速やかに保存の措置を講じる。 ・歴史公園としての公開に取り組む。 ・史跡地内外の景観保全・形成を推進する。 ・関係諸機関との連携・調整による史跡の価値の伝達。 ・史跡の関係者間による円滑な保存管理体制づくり。 	文化財課
<p>◎第3期大分市中心市街地活性化基本計画 〔平成30年4月策定〕</p>	<p>中心市街地を活性化させる事業の一つとして「大友氏遺跡情報発信事業」が位置付けられている。</p> <p>事業内容：大友氏や大友氏遺跡に関する講演会や歴史講座等を通じて、市内外に本市の新たな魅力となる大友氏遺跡の情報を発信する。</p>	商工労政課

上位・関連計画	位置づけ	担当課
◎大分市環境基本計画 〔平成29年3月策定〕	基本目標の一つとして「水辺や緑と親しみ歴史・文化が薫るまち（快適環境）」を掲げている。施策では「歴史・文化の保全と継承」を掲げており、その中の「文化財の活用」で大友氏遺跡歴史公園を拠点とし、歴史・文化を活かしたまちづくりや大分市観光ボランティアガイドを育成し、歴史的文化資源の活用推進、学校教育において歴史・文化を大切にしている取り組みを実施することなどを定めている。	環境対策課

(5) 大友氏遺跡の保存活用関連事業

事業名	目的	担当課
大友プロモーション事業 平成 25 年度～	「大友宗麟公とその時代」の功績を学び、守り、活かし、育てていくことを通じて、ふるさとに対する愛着心や誇りの醸成を図るとともに、本市の歴史特性や魅力を全国に情報発信することにより、認知度向上や誘客につなげる。 ●主な活動 ・宗麟公まつり ・大友氏ゆかりの史跡を巡るツアー ・NHK 大河ドラマの誘致	[担当課] 観光課 文化財課 

事業名	目的	担当課等
キリシタン・南蛮文化交流協定協議会事業 平成 25 年度～	大友宗麟やキリシタン南蛮文化にゆかりのある自治体が連携協力を図り、情報や人的交流を組織的に展開することにより、地域に残る文化遺産をより広く周知させ、それぞれの市町のまちづくりの推進及び地域振興、観光振興の活性化につなげる。 ●主な事業 ・おおいた子ども遣欧使節団の派遣 ・キリシタン南蛮文化ツアー ・ガイドマップの作成	[担当課] 文化財課 観光課 [構成団体] 国東市・日出町・大分市・白杵市・津久見市・竹田市・由布市 